

Grand Toit News

vol. 83
Autumn 2025

島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
石見美術館
IWAMI ART MUSEUM
いわみ芸術劇場
IWAMI ARTS THEATER

Grant News

企画展紹介 「故郷で開催する最大規模の展覧会
海外からの里帰りの作品も」

劇場事業紹介 「秋のイベント特集 劇団あしぶえ『セロ弾きのゴーシュ』/
Grant開館20周年記念感謝祭『きんさいデー』」

- わたしのおすすめ
- PICK UP EVENT ほか

10月12日(日)
石見美術館
終日無料!



図1 「ひよしや」開店の頃
写真：石井幸之助

故郷で 開催する 最大規模の 展覧会 海外からの 里帰り作品も

開館20周年記念企画展
「生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ」について、
担当学芸員の南日さん、廣田さんに聞きました。

開館20周年記念展が続いてい
ますが、秋はファッションの企画
展。世界的なデザイナー、森英
恵さんの展覧会なのですね。
南日(以下N) そうなんです。東洋
人として唯一、フランス・オー
トクチュール組合の正会員とし
て活躍した森英恵さん。2026年
1月に森さんの生誕100年を迎
えること、そして、当館の開館
20周年も記念し、過去最大規模
の展覧会を開催します。オート
クチュール作品はもちろん、今
回はサブタイトルを「ヴァイタル
・タイプ」として、森さんのキャ
リアの最初期に注目します。

そうそう！ヴァイタル・タイプ、
気になっていました。
廣田(以下H) ヴァイタル・タイプ
は、森英恵さん(図1)が1961年
に提案した、はつらつとした人
物像です。人の気持ちや時代の
変化、あらゆる物事に敏感で、
自分らしくさっぱりと生きる、こ
んな性質をもった、ある種の理
想形として打ち出されました。
森さんに会ったことのある人にと
っては、「それって森さんその
ものじゃない？」と思えるところ
があるのですよね。今回の展覧
会では作品はもちろん、森英恵
さんという人物そのものを紹介

したいと考え、その生き
方を象徴する言葉として
サブタイトルに採用しま
した。
N 森英恵さんは、私た
ちが会いに行くといつ
も「よく来てくれたわ
ね。島根はもう寒いの？」などと、
必ず暖かな言葉がけから会話を
始められました。オートクチュール
のデザイナーと聞くと、遠い
存在のように感じる方が多いか
と思うのですが、実際の森さん
はもちろん上品なのですが、と
ても気さくに接してくださる方
で、私たちは憧れていました。
ヴァイタル・タイプという言葉
や人物像に出会って、森さんの



図2
森英恵
《百合と桔梗のデイドレス》
1976年頃 ハナエ・モリ
写真：小川真輝

人柄は若い頃から変わら
ないものだったのだと、
嬉しくなったのです。

なるほど、生き方
を表す言葉なんで
すね。具体的には
どんなものが展示
されるんですか？
H 森さんは1951
年に最初のスタ
ジオ兼ショップで
ある「ひよしや」を
新宿にかまえ、子
育てしながらいく
つもの仕事をこな
す、まさに活発な
ヴァイタル・タイ
プでした。映画衣
装の仕事や、雑誌
や新聞の連載など、
分刻みのスケジュ
ールをこなしたそう
です。展示の最初の章では、この
頃の文章や写真、映画衣装など
を展示します。

のキャリアを通して森さんの代
表作となりました。展覧会の準
備調査で、それらを支えたオリ
ジナルの布地とその原画を発見
しました。さらに、ニューヨーク
の美術館に森さん自身が寄贈し
たドレスなども里帰りし、多数
の初公開作品が並びます。
H もちろん、森さんが心をこ
めて取り組んでいた、オートク
チュールの作品も沢山展示しま
す。デザイナーのアイディアに、
卓越した職人の手仕事と素材を
合わせて実現するドレスの、圧
倒的な存在感を目の当たりにし
て欲しいです。それから、森さ
んはファッションを単なる消費
材でなく文化とすることを目指
し、雑誌(図3)や映像メディアを
もって情報を広く伝え、店舗や
ビルなどを通してファッションに
関心のある人々が交流できる空
間もプロデュースしていました。
服作りにとどまらない多面的な
仕事ぶりにもご注目ください。



図3
アートディレクション
橋尾忠則
『流行通信』No.195
1980年4月号 表紙
流行通信社

ヴァイタル・タイプを象徴する
作品ですね。他はどうですか？
N 上質な日本の絹を使った色
鮮やかなドレスも見どころの
一つです(図2)。海外で仕事をす
るため、日本の布や美術を学び直
して作りあげた作品は、その後

[開館20周年記念企画展]

開館時間 | 9:30-18:00 (展示室への入場は17:30まで)
休館日 | 火曜日(9月25日は開館)、9月24日

主催 | 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、
日本海テレビ、山陰中央新報社、中国新聞社、
森英恵展の実施による地域の魅力発信と
インバウンド誘客実行委員会
特別協力 | 森英恵事務所
協力 | 一般財団法人森英恵ファッション文化財団、
インファス・ドットコム、MN インターファッション株式会社、
日活株式会社、水戸芸術館
後援 | 芸術文化とふれあう協議会、NHK松江放送局、
毎日新聞松江支局

[観覧料]
当日券 | 一般 1,300(1,050)円 高校生以下 観覧無料
大学生 600(450)円
前売券 | 一般 1,100円 大学生 500円

* () 内は20名以上の団体料金
* 各種障がい者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方および
その介助者(1名まで)は入場無料
* 外国人は当日料金が半額(パスポートをご提示ください)
* 前売券はGrantワ総合案内カウンター(9月19日まで)
およびオンラインチケット「シマチケ」(WEBサイト)で
お求めになれます

2025年
9月20日[主]—12月1日[月]
September 20 — December 1, 2025 | Iwami Art Museum
島根県立石見美術館



森英恵 (イヴニングアンサンブル)
1977年秋冬、
HANAE MORI HAUTE COUTURE
Photo: Masaki Ogawa

森英恵 ヴァイタル・タイプ

HANAE MORI Vital Type:
The 100th Anniversary of Birth

100生
年誕

関連プログラム

◎森星 スペシャルトーク
10月4日(土) 開場13:30/開演14:00/終演15:30
ゲスト | 森星 (モデル、「tefufu」クリエイティブディレクター)
会場 | 大ホール *詳細は裏面「PICK UP EVENT」で

◎スペシャルワークショップ
オートクチュールの縫いに挑戦
森英恵さんの作品づくりを支えてきたアトリエは、1950
年代から素晴らしい手仕事の技を大切に受け継いで
きました。今回のワークショップでは、縫製の技を間近で
見学し、その後実際に挑戦してみます。アトリエでの服づ
くりや仕事で使う道具についてもお話いただけます。
11月16日(日) 14:00-16:00
講師 | 藤平昌代 会場 | 講義室
先着30名/要申込/参加無料/
観覧券またはミュージアムパスポートが必要

◎ワークショップ | しまねの草木染め
10月22日(水)、11月29日(土)
10:00-12:00、14:00-16:00
講師 | 諸田幸枝 (染色家) 会場 | 多目的ギャラリー
各回先着20名/要申込/参加無料/
観覧券またはミュージアムパスポートが必要
各プログラムの詳細は当館ホームページでお知らせします。

世界的に有名なアーティスト。地元で初めての展示がこのGrantワで大変うれしく思います。若い時にこのような作品を見たかったです。ぜひ、益田市のこども達に来て見て感じて欲しいです。(益田市・50代/加藤 何者かへの道)
一生に一度は萬斎さんの三番巻を見たくて、松江から来ました。迫力と所作の美しさに圧倒されました。羽生結弦さんとのコラボのMANSAIボレロも素晴らしいですが、伝統芸能ならではの良さがありました。(松江市・60代/野村萬斎 狂言のタペ)
いとも簡単に吹いていらっやいますが、常日頃の努力が見えました。力強いパワーをいただき、明日からも頑張ります。ありがとうございます。100万回お礼申し上げます。(周南市・70代/渡辺貞夫カルテット2025)

劇団あしぶえ「セロ弾きのゴーシュ」

地元島根を拠点に活動する劇団あしぶえ。開館20周年の節目に、子どもから大人まで好評の作品を通して演劇の面白さをお伝えしようと、8年ぶりにグラントワでの上演を企画しました。今回は初めての方へ、劇団や物語についてご紹介します！



劇団あしぶえ

昭和41年創立。〈演劇を人々の暮らしの中へ〉との思いで100人劇場建設を模索し、平成7年に公立「しいの実シアター」を建設。国際演劇祭を主催し、サントリー地域文化賞、国際交流基金賞など多数受賞し、国内外で高く評価されています。

物語のあらすじ

町の音楽会まであと10日。楽団でセロを弾くゴーシュは一番下手と評判で、楽長に叱られてばかり。その晩から動物たちがやってきて、それぞれの方法で大切なことを教えてくれますが、ゴーシュは気づかず、ド

レミファを教えてと願うカッコウにケガをさせてしまいます。

ゴーシュはどうなるのでしょうか…

初演から磨き続けられた名作

36年前、1年間に46回上演しないと採算が合わないと始められた「セロ弾きのゴーシュ」。当初は「わからない舞台」と言われながらも、原作の奥深さに惹かれ上演が続けられました。作品の本質が見えてからは、まことのテーマをどうすれば届けられるのかと悩まれたそうです。

成長を続ける劇団あしぶえの代表作をぜひご覧ください！

グラントワ開館20周年記念感謝祭「きんさいデー」

開館20周年！日頃の感謝の気持ちを込め今年も全館をあげた記念感謝祭「きんさいデー」を開催します。

美術館を終日無料開放！

毎年好評いただいているきんさいデーの恒例企画、石見美術館の無料開放。今年も全ての展示室に終日無料で観覧いただくことができます。当日開催している展示会は企画展「生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ」、特別展「石州和紙といわみの暮らし」、コレクション展「津和野藩ゆかりの日本画」と、すべて「島根」ゆかりの内容となっています。

子どもも楽しめる、神楽や紙芝居もあります

きんさいデーでは、神楽やワークショップ、スタンプラリーなど盛りだくさんのイベントを企画しています。今回の目玉企画のひとつは、益田おやこ劇場との共催による「りさ&たつ二人の



紙芝居ショー」。現代紙芝居界のスーパーアイドル(?)「りさちゃん」とスーパーラッキーマン「たつちゃん」が強力タッグを組んで、皆さんに笑顔をお届けします♪

地元グルメを堪能！

中庭広場や正面エントランスで開催される「きんさい食堂」ではグラントワ提携店をはじめ、地元飲食店の自慢の料理やスイーツをご提供します。

開館20周年を迎える「グラントワ」で、特別な秋の一日をお過ごしください。多くの皆様のご来館をお待ちしています。

グラントワ開館20周年感謝祭「きんさいデー」
2025年10月12日(日) 10:00～14:30 入場無料(飲食等一部有料)

劇団あしぶえ「セロ弾きのゴーシュ」2025年10月5日(日)
14:00開演(13:30開場) 【前売】一般3,000円/高校生以下1,000円(当日各500円増)

The 石見美術館 わたしのおすすめ Collection

加部松園
《老松図》

大正5年(1916) 当館蔵
(令和6年度 村上万理氏寄贈)



主任学芸員 角野広海

老松図は、歳月を経た松の木を描いた絵のことで、不老長寿を意味する吉祥画です。この絵では、空へ向かってたくましく伸びる松の木が、水墨画の技法によって描かれています。

作者の加部松園(1850～1922、名は厳夫)は、津和野出身の国学者、日本画家です。津和野に生まれ、国学と漢学を大国隆正

と福羽美静に学びました。津和野藩校・養老館を卒業した後は、主に国学者として活躍し、国歌「君が代」の選定にも携わったことが知られています。幕末から明治期の南画家である野口幽谷(1825～1898)に絵を学び、日本画家としても活躍しました。

本作は、「行幸記念島根総合美術展」(主催:島根新聞社、会場:松江市立高等女学校、1947年)に出品された作品です。

報告します!

ダイバーシティいわみ事業
映画をとどける言葉たち

5月25日(日)、映画館Shimane Cinema Onozawaにて「映画をとどける言葉たち〜ハリアフリー音声ガイドをめぐって〜」を開催。短編アニメの音声ガイド付き上映と、声優・ナレーターの佐々木望氏、音声ガイド制作者の和田浩章氏によるトークを通じて、「映画をとどける言葉とは?」について考えを深める時間となりました。実際に音声ガイド制作に携わるお二人のトークでは、「音声ガイドは視覚情報の解説と同時に表現世界のひとつ」「制作者の繊細な言葉の取捨選択と生身のナレーターによる伝え方の工夫」「情報保障を超えて鑑賞者の創造性を引き出す音声描写の可能性」など、深い制作トークが展開されました。



当日の様子

INFORMATION

■開館(利用)時間
※グラントワは8:45から開館
石見美術館 9:30～18:00
(展示室への入場は閉館30分前まで)
いわみ芸術劇場 9:00～22:00
■休館日(祝日の場合開館、翌平日休館)
※催しに合わせて休館日を変更する場合があります。
石見美術館 毎週火曜日、年末年始
いわみ芸術劇場 第2・第4火曜日、年末年始
※9月23日(火)は臨時開館、
9月24日(水)は臨時休館



交通案内
◎石見交通バス「グラントワ前」下車徒歩1分
◎JR益田駅から徒歩15分
◎秋・石見空港からJR益田駅まで連絡バス約15分
◎浜田自動車道浜田ICから自動車約50分
◎JR新山崎駅から益田駅まで特急約90分

グラントワ Grand Toit
島根県芸術文化センター「グラントワ」
〒698-0022 益田市有明町5-15
TEL: 0856-31-1860(代表)
FAX: 0856-31-1884(代表)
e-mail: grandtoit@cul-shimane.jp
www.grandtoit.jp

PICK UP EVENT

森英恵展関連プログラム「森星 スペシャルトーク」
2025年10月4日(土) 開場 13:30 / 開演 14:00 / 終演 15:30
大ホール
【ゲスト】森星(モデル、「tefufefu」クリエイティブディレクター)
聴講無料 ※観覧券またはミュージアムバスポートが必要

モデルとして活躍する一方、近年は自身のブランド「tefufefu」で創作活動にも注力している森星さん。森英恵さんの孫娘である星さんに、英恵さんのクリエイターとしての顔や、家族としての素顔について語っていただきます。
※詳細は当館ホームページでお知らせします。

劇・場・を・探・る

【袖幕】



舞台両袖を隠すための幕です。舞台の左右方向を表す上手・下手の対で設置され、袖の中にある大道具や待機している出演者が見切れないようにするための役割をもっています。開いている状態では袖幕と同じ機能を持ち、中央まで閉じることで、舞台奥行き方向を仕切ることが出来る「引割幕・中割幕」も存在します。

今回は「ピアノ庫」です。

国際音楽交歓コンサート2025

INTERNATIONAL MUSIC EXCHANGE CONCERT



2025
9/13(土) いわみ芸術劇場 大ホール

入場無料 ゲスト出演: グラントワ・ユース・コール
グラントワ合唱団

世界各国の音楽家たちが声楽・ピアノ・ヴァイオリンで織りなす、華やかで躍動感あふれる音色が響く特別な時間。クラシック初心者の方も気軽に楽しめる、親しみやすい名曲や地元合唱団との共演も。音楽の力で心を満たすひとときを、一緒に過ごしませんか?

※開演時間や申込方法はグラントワHPをご覧ください。

宮田大 × 内藤 廣

THE TALK MUSEUM THEATER ミュージア vol.26

深響

2025 10/26(日) 18:30開演 (18:00開場)
いわみ芸術劇場大ホール

【入場料(全席指定・税込)】一般3,000円、高校生以下1,000円
未就学児入場不可 詳細はグラントワHPをご覧ください

